

現代高校生の雅楽の受容に関する一考察

～雅楽の魅力を届ける為に～

A Study of Modern High School students' Reception of *GAGAKU*

: To Let Them Feel an Attraction to *GAGAKU*

八代健志 (福井大学)

Takeshi YASHIRO(University of FUKUI)

(キーワード)

雅楽、現代高校生、受容

1. はじめに

我が国の伝統音楽である雅楽について、筆者は小學校でその学習に心を砕いて来たつもりである。しかしながら旋律の進行がゆったりし過ぎていて、現代の子どもたちに、その魅力を完全には受け入れさせられなかったと反省を持つ。

そのような実践研究も踏まえ、もう少し年齢の上があった、知覚・感受の力もついてきた高校生の雅楽の受容の様子を知りたいと考えた。

そのことで、音楽科の中での雅楽の取り扱い、という現場の悩みに答えられたら、とも考えた。

アンケートの対象には、雅楽部を持つ浪速高等学校を選んだ。それは、ある程度雅楽の存在について全校生徒が知っていて、その説明が不要であろうと思われたからである。

2. 研究の目的

現代の高校生が雅楽をどのように受容しているのかを知る。

合せて可能ならば、その受容の在りようから、教育現場で雅楽をどのように指導すれば良いかについてヒントを得る。

3. 研究の方法

浪速高校の「一般的な生徒」に対し、その生徒自身と雅楽のかかわりを尋ねるようないくつかの質問を無記名のアンケートで訊き、回答結果を分析し、

彼らの雅楽の受容の様子を探るというものである。

「一般的な」とは、この高校の雅楽部と神楽部には属していない生徒、との意味である。

4. 調査の結果

「1. はじめに」のところで述べたように、生徒たちは学校行事などで、日ごろから雅楽部の演奏を聴く機会があるので、だいたいの雅楽に対するイメージを持っている為、質問への答えがスムーズにできていたように思われた。

一般的生徒に訊いたアンケートとは別途に、雅楽部・神楽部の生徒にもアンケートを実施していたので、その中の重なる設問にどのような答え方をしているかも合わせ見ていくことにした。

5. 考察

「一般的な」生徒は、雅楽部の生徒たちとは違って、「今どきの」、とも言えるような音楽嗜好を持っていた。がしかし、雅楽に対してもその知覚・感受の力はしっかりと発揮できていた。

6. 結論と今後の課題

上に言う「一般的な」同校の生徒諸君は、高校生としての雅楽に関しての知覚・感受はよく出来ていた。ただ、そのありようは、日頃から雅楽へ触れる機会が多いということから来ているのではないかと思われ、今後の課題としたい。